

(兼題)

「傘」

佐藤 治代 選

佳句

傘寿まだ米寿卒寿の一里塚
懐かしい番傘借りたお湯の宿
要介護心の傘を差し掛ける
抑止力なせか悲しい核の傘
今日も待つ君の忘れた赤い傘

人

ちかし
昌枝
あきら
ちかし
瑞人

この傘で綿毛のように飛びたいな

地

仲田美千代

逢って来た傘の雫がまだ切れぬ

天

三島 淞丘

迷ったら母のやさしい傘がある

軸吟

小豆沢歌子

面映い相合傘にさせる雨

佐藤 治代

(兼題)

「育つ」

岡 あきら 選

佳句

母ごころしつかり育て嫁にやる
叩かれて叩いて育つ兄弟あにおとこ
育児書の通り育てて悔い少し
枯らすのも育つも親の愛ひとつ
人並に育てて呉れてありがとう

人

玲子
寿美
敬子
淞丘
桂子

頑張った子育て親も育てられ

地

今岡 健柳

荒波にもまれ育って今がある

天

堀 弘子

大輪のバラ育み土は驕らない

軸吟

清水美智子

真っ直ぐに育った苗は裏切らぬ

岡 あきら

(兼題)

「染める」

銭山 昌枝 選

佳句

真っ黒に染め若返る気もそぞろ
戦中派もつたいないに染められる
夕焼けが心の隙を染めにくる
染まっではいけない彩にすぐ染まる
染めようと思つた僕が染められる

人

洋子
敬子
美智子
ちかし
あきら

心の隙間染めて見ようか夏色に

地

秋山 久子

私の弱いところを濃く染める

天

小豆沢歌子

群れに居て知らずに染まる雑魚の色

軸吟

竹治ちかし

三代のB型家族朱に染まる

銭山 昌枝

(席題)

「船」

竹治ちかし 選

人

船揺れてたつぷり地獄見た私
岸壁で別れた船が帰らない
船をこぐ逆転の日を待ちながら

軸吟

吉川らんまん
小豆沢歌子
珍部美江子

いずもの名付けた誇りの護衛艦

竹治ちかし